

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190501304		
法人名	株式会社オストジャングループ		
事業所名	グループホームいきいき(プラタナス)		
所在地	北海道札幌市白石区北郷9条3丁目3番1号		
自己評価作成日	令和4年6月28日	評価結果市町村受理日	令和4年8月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の為に外出や行事がままならない中、従来の行事を縮小しホーム内で楽しめることや敷地内の屋外での活動、または車中で楽しめるドライブ等、感染症の危険を避けながら、できる楽しみを見つけ、行なっていくことを意識しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0190501304-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和4年7月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は右手に札幌新道、高速道央道、左に望月寒川に囲まれた三角地点に位置している。隣接のケアハウスは、非常時の避難所として協力を要請している。地域交流はお互いに控えているが、町内会役員から近くの川の状況報告があるなど良好な関係にある。家族等の面会も制約しているが、ガラス越しの対面や都度の電話連絡、毎月のユニット便り、個別に利用者の言動を記した「暮らしの日記」1カ月分を送付している。外出も自粛しているが、玄関横の花壇にある退所した利用者が植えていたグズベリーやカリンズを大切に育てたり、畑の作物の成長を眺め、川沿いの散歩、ドライブで車窓から景色を眺め気分転換を図っている。利用者は、掃除や洗濯物干し、金魚の餌やり、体操、脳トレなどを行い、身体機能維持や程良い刺激に繋がっている。職員は、喜怒哀楽を利用者と共有したいと心身に寄り添う支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念、ケア理念、ホーム目的があり、フロアの台所の上や職員が毎日目を通す日誌に貼っており、意識をしながら対応している。	運営理念、ケア理念、ホーム目的は、系列のグループホームと共有し、実践に努めている。理念を要所に掲示、日誌に添付、毎朝の唱和、研修で理念の持つ意義を確認するなど、職員の共通認識に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しているが現状、コロナウイルス等の影響もあり交流があまり出来ない状況である。	地域とは相互に自粛中だが、回覧板の情報で職員は清掃活動に参加している。敬老会では、馴染みの園児達からのプレゼントが職員から渡されている。感染症対策を講じての共用型デイサービスの利用者とは地域交流の一環として触れ合いがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は職業体験などの受入れをしていたが、コロナウイルス等の影響により、行なっていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状、コロナウイルス等の影響もあり書面での開催になっていたが、充分に行えていない状況である。	コロナ禍も要因の一つとなっているが、令和3年度の運営推進会議は開催されていません。	開催に向けての話し合いが行われ、再開の意向を示しているため、その取り組みに期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な報告事項など必要な事を伝達し協力関係を築く様にしている。	行政とは、統括グループ長と管理者が各事案を分担し、管轄の担当者と関わっている。実地指導を始め、都度適切な意見が得られており、助言により終末期における指針の整備が行われている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜勤帯は防犯の為、施錠しているが日勤帯は施錠せず出入りを自由にして見守りを行っている。身体拘束適正化の研修や委員会を行なっている。	指針で身体拘束廃止の姿勢を示し、カンファレンス時に年6回の適正化委員会や適宜研修会を行い、さらなる理解に導いている。呼称は、利用者の要望と家族の同意を得てとしている。特にスピーチロックは、職員間においても注意の必要性を認識している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニットカンファレンスや内部研修等で勉強の機会を設けている。マニュアルもあり日常の業務において虐待や抑制については都度、話し合いを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用している方が居る為、制度自体は把握出来ているがあらためて学ぶ機会は設けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に重要事項等について説明しその場で疑問がある場合はお話をさせていただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関前に意見箱を設置しているが、現状コロナウィルス等で面会等制限している。投函されたケースはないが、電話等で御家族様からお話があった場合はお伺いしている。	家族とはガラス越しでの対面だったが、居室での面会を検討している。毎月のユニット便りに加え、個別に利用者の毎日の言動を記した「暮らしの日記」1カ月を送付している。利用者や家族から運営への意見は殆どないが、出された分には改善策を講じる態勢にある。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットカンファレンス等、意見や提案を伝える機会を設けている。	管理者は、日々の業務や会議、個人面談で職員から運営に関わる意見や個人的な希望を傾聴している。状況により、系列事業所合同の責任者会議で報告し、業務の改善に生かしている。職員は、レクなど業務を分担し、スキル向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課や普段の聞き取りなどを通して努力や実績について確認し職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウィルス等の影響もあり現状できていない。カンファレンス内では、書面の研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウィルス等の影響もあり現状できていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	問い合わせや見学など各段階で、本人の現況や困っていること等、聞き取りを通して信頼感を得られるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせや見学など各段階で、入居条件や費用、疑問点について判るように説明し、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族のニーズがグループホームへの入居と合致しているかを含めてお話を伺い、適切なサービス利用につながるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ユニットの掃除をしていただくなど、できる方には役割を持っていただいている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現状、コロナウィルス等もあり面会は制限しているが毎月のお手紙や電話等で現状報告している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウィルス等の影響もあり、面会等制限している為、出来ていない。	外出や面会も制限があり、親しい人と会ったり馴染みの場所を訪れることは困難だが、感染症拡大防止に配慮して、家族との面会や共用型デイサービスの利用者と関わりが持っている。自宅への一時帰宅や墓参が実現した利用者もいる。利用者間で昔話が繰り広げられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	困っている利用者の話を聞いてもらったり、気の合う人同士の席を近くするなどして、利用者同士の関わり合いを支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や問い合わせがある場合は快く応じ、連絡を受けられるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様やご家族様とお話をして、希望、要望を聞く様にしている。自らの思いを伝えられない方についてはこれまでの生活の様子を踏まえて検討している。	職員は利用者とのコミュニケーションを取り、思いや意向を傾聴したり、涙み取ったりして可能な範囲で応じている。利用者から外出等の要望はあるが、コロナ禍により全て叶えられることは困難な状況にある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートや聞き取りを元に今までの習慣や生活歴を元にケアしていく事に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録をつけ、バイタル測定や排泄チェック等で心身状態を把握し、カンファレンス等で日々の状態を共有し、現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意思疎通できる方については要望を聞き、ご家族の要望を合わせてカンファレンス等で検討し、かかりつけ医等関係機関と相談しながら、介護計画を作成している。	ケアプランは、入居時の暫定プラン、更新時、状態変化時に作成している。利用者の状態把握は基より家族や医療従事者の意見も踏まえ、利用者が何を求めているかを見極め、適切な支援目標になるよう担当者会議で協議している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子を記録しスタッフ間で情報を共有出来る様工夫し、カンファレンス時に出た気づきや提案を介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人のニーズに柔軟に対応出来る様に介護計画以外のニーズにも対応出来る様にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス等の影響もあり以前の様に外出等は出来ていないが散歩やドライブ等で楽しめる様にしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、かかりつけ医の訪問診療や必要に応じて外来対応を行っている。本人のかかりつけ医の受診の支援も行っている。	希望の受診先を傾聴しているが、全員が月2回、内科医と、都度歯科医の訪問診療を受けている。専門医への外来受診は、家族の協力も受けながら、職員が支援している。週1度の訪問看護師からは利用者の健康チェックと適切な助言も得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の訪問看護事業所からの訪問を受け、日々の情報を伝え、受診や対応等について相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病状の把握が出来る様に関係先と情報交換や相談を行いながら早期に退院出来る様に努めている。また入院時には普段の様子がわかる様にフェイスシートを作成してお渡しすると共に必要に応じて聞き取りをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、かかりつけ医、施設との話し合いを行い、入居者の思いに添える様に努めている。	重度化や看取りに向けた指針をそれぞれ策定し、入居時に利用者や家族の同意を得ている。重篤時は、主治医から家族や職員に今後の方向性が説明され、態勢が整った時点で看取りのケアプランに沿って、尊厳あるケアが開始されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルがあると共に施設内にAEDを設置しており緊急時には使用出来る様にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定した地震、火災訓練や水害等の避難訓練を定期的に行っている。コロナウィルス等の影響もあり現在は地域の方に訓練の様子を見てもらう機械を設けていないのが現状。	年2回の避難訓練は、火災・地震・水害が日中・夜間帯に起こったと想定して行われている。川が近いこともあり、土嚢の必要性を理解するなど、備品は順次用意している。避難場所は、状況により事業所内か隣接の施設としている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重しプライバシーに配慮した声掛けを対応に心がけている。また個人情報に関わる記録物は基本、持ち出しを禁止している。	職員は、カンファレンスの中で正しい接遇のあり方を学び、利用者の全体像に応じたケアに努めている。個人関連の書類の取り扱いも十分に配慮がある。職員の無意識な言動が不適切なときは、管理者が正しく導いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の中での様子や発言等、本人の思いを汲み取る等、配慮に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせてその人らしい過ごし方を尊重している。食事や入浴、外出等の希望があれば個別に対応に対応も行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類など持ち込んでいただき、入居後にご家族や本人と相談、検討し、本人らしい身だしなみができるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせて食べやすい様に刻み食等に加工したり、肉が嫌いな方には魚等の代替食を、誕生日や行事の際は行事に合わせた食事を提供したりしている。	食事は業者から届くが、利用者の状態に応じてアレンジをしたり、苦手な物は他の食材で補い、きざみ食など食事形態にも配慮している。母の日にちらし寿司、誕生日は要望の出前寿司、ときにはパンバイキング、利用者と畑で採れた芋で芋餅を、サツマ芋でスイートポテトを作るなど、食事を楽しめる支援に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量を記録し全職員が把握出来る様にしている。一人ひとりの嚥下の状態を把握してきざみ食やミキサー食、とろみ剤を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や就寝前に声掛けや介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用して個人の間隔に合わせた声掛けや誘導をしてトイレでの排泄につなげている。排便についても排泄表を見ながら水分を多めに摂っていただく等配慮している。	トイレでの排泄を基本とし声かけや誘導を行い、自立支援や失敗の軽減に努めている。夜間のみ転倒防止策としてベッド上での支援も行っている。スムーズな排泄に繋げるため、食事内容や水分補給、運動等に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や水分の提供、体操や散歩などの運動の促し等、個々の排泄習慣に応じた便秘予防を心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	進んで入浴していただける様な声掛けや、タイミングに合わせて気持ちよく入浴していただいている。	毎日入浴できる環境にあるが、週2~3回を目安に午前・午後に支援している。拒否のときには利用者の意思を尊重しているが、日時設定や職員を替え入浴に繋げている。足湯にシャワー浴も行っているが、殆どは湯船で寛いでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に休息出来る様に対応している。寝具等にも気を配り心地よく休めるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬について、薬の形状変更や服薬方法等、必要に応じて訪問診療時に医師や薬剤師と相談し介助等している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな事や運動など楽しく出来る様に職員も参加しながらすすめている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルス等の影響や入居者の重症化により難しくなっている。	コロナ禍により柔軟な外出企画は難しいが、近所で咲いている桜を見物、近くの川を眺めたり、川沿いの散歩、庭先のベンチでおやつタイム、畑の花や野菜の成長を楽しみ、車から降りないドライブ等で日常に変化をつけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができず以前に持っていたお金がなくなった等のトラブルが発生した為に現在所持している方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の音が聞こえない等、難しくなっているが、希望がある方については電話等で対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を見てわかる様に壁等に装飾などを作成し飾ったりしている。食事席やリビングなど座る場所を決め、談話しやすい場所やトイレに行きやすい導線等、工夫をしている。	ユニットによっては利用者がリビングで過ごすことも多く、快適な住環境を整えている。壁面には、レクリエーションで制作した桜の木や鯉のぼり等を展示し、利用者の写真や事業所便り等も貼り出している。利用者が花壇から切り取った花が食卓に置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部のソファやテーブルの配置を工夫して、独りで過ごしたい方や数人で一緒に過ごしたい方への居場所を提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅等で使用していた家具等を持ち込んでいただき、入居前の感覚をできるだけ維持できるように本人や家族と相談している。	クローゼットが設置されている居室には、ベッドやタンス、テーブル、椅子、冷蔵庫、仏壇等が置かれている。また、家族写真やレクでの作品も掲示し、編み物セットなど趣味の物も持ち込まれており、安心感ある空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差や危険なものを排除し、トイレや居室など表示や目印でわかりやすいように工夫している。		